

■タイトル…種付けおじさん養成所のメスガキ教官

▼はハートマークです

■①メスガキ教官現る！ アンタを絶対に卒業させたりしないんだから

メスガキ教官 「ふんっ、アンタが卒業試験を受ける生徒ね」

メスガキ教官 「……にしても、卒業試験の担当がアタシだなんて、不幸なやつね」

メスガキ教官 「アンタも噂くらい聞いたことあるでしょ？」

メスガキ教官 「アタシの卒業試験は、今まで誰も合格できなかったって」

メスガキ教官 「ふふっ、ビビってるわね……」

メスガキ教官 「でも安心しなさい、アンタもキチンと落第にしてあげるから」

メスガキ教官 「大体種付けおじさんなんて、ただの犯罪者予備軍じゃない」

メスガキ教官 「そんなやつらを世に送り出すわけにはいかないわ！」

メスガキ教官 「だからアタシは、この養成所の生徒を全員退学にさせてやるの」

メスガキ教官 「それがアタシがこの養成所で教官をしてる理由」

メスガキ教官 「どう？ 感動的でしょ？ まさに正義のヒーローって感じよね」

メスガキ教官 「ふふふ、どうやら言葉も出ないみたいね」

メスガキ教官 「……さて、そろそろ卒業試験の説明をしてあげようかしら」

メスガキ教官 「試験の内容は簡単よ、アンタには今からアタシとエッチを  
してもらおう」

メスガキ教官 「エッチをして、お互いにイカせ合いまくって、  
アタシにギブアップと言わせれば合格よ」

メスガキ教官 「逆にアンタが、情けなく射精しまくって  
ギブアップを宣言したら、その時点で落第よ」

メスガキ教官

「落第のついでに、種付けおじさんの適正ゼロってことで養成所から追い出してやるわ」

メスガキ教官

「どう？ とつても素敵な試験でしょ？」

メスガキ教官

「もし怖いのなら、辞退してもいいのよ？」

メスガキ教官

「アンタみたいな、マヌケそうな大人がメスガキに敵うわけないんだから」

メスガキ教官

「ふふっ、無様な負け犬チンポとして、来年また再受験しなさい」

メスガキ教官

「……何よ、受験するって言っの？」

ふんっ、後悔しても知らないんだからねっ」

■②耳舐め乳舐め×手コキ あははっ、チンポビクビクさせて情けな〜い▼

メスガキ教官 「さて、それじゃあ試験をはじめましょう」

メスガキ教官 「くふふっ、最初は何をしてやろうかな〜」

メスガキ教官 「……うん、そうね。決めた……」

メスガキ教官 「くふふふ。簡単に押し倒されちゃって、情けな〜い▼」

メスガキ教官 「ほんと、大人の癖によわわ w ざーこざーこ w」

メスガキ教官 「……くふふ、今からアンタの耳をペロペロしていくわ」

メスガキ教官 「耳穴をペロでホジホジして…アンタのチンポを勃起させるの」

メスガキ教官 「アンタは大人だから、ちゃんと勃起するの我慢できるわよねっ」

メスガキ教官 「くふふ、なーんてね▼」

メスガキ教官 「大人がメスガキに敵うわけないんだから……無様に勃起しなさい▼」

メスガキ教官 「れろっ…じゆるっ、ちゅっ…ん、んじゆるっ…」

メスガキ教官 「んちゅっ、ちゅ、ちゆるっ…れろっ、じゆるじゆるっ…」

メスガキ教官 「はちゅっ、んっ…ちゅ、ちゅばっ…れろっ、じゆる…ちゅっっ…」

メスガキ教官 「ちゅまっ…耳、ピクピク反応してるし▼」

メスガキ教官 「……やっぱり、大人の男って雑魚すぎよね w」

メスガキ教官 「くふふ……ざー、ざーこ w、ざーこ w」

メスガキ教官 「ちゅっちゅばっ…れろれろれろお……んちゅっ、じゆる…ちゅっ……」

メスガキ教官 「はあむっ…んっ、ちゅちゅちゅっ、んちゆるうっ…じゆるるるう…」

メスガキ教官 「んっ、んうちゅっ……ちゅ、んちゆるう…

じゆるちゅばっ…んじゆるう…」

メスガキ教官

「ちゅっ、ちゅちゅっ…れろれろれろお…  
ちゅ、ちゅるむっ…んちゅっ……」

メスガキ教官

「んちゅるっ…チンポ、膨らんできてるんじゃないのお？」

メスガキ教官

「ちゅむっ…もう我慢できないんでしょう？  
思いつきり、チンポを勃起させたいでしょ？」

メスガキ教官

「……くふふ、意地はっちゃってダサいわね▼」

メスガキ教官

「アンタのくだらない意地なんて、すぐに壊してあげるわ▼」

メスガキ教官

「ちゅっ、ちゅるっ…んくっ、ちゅむるう…んちゅじゅむう…」

メスガキ教官

「はあ、じゅるう…じゅむ、れろれろれろれえろお……」

メスガキ教官

「ちゅっ、ちゅむっ、ちゅ…ちゅばあ…じゅ、れろっ…ちゅぶ…」

メスガキ教官

「ちゅるるう…ほら、どんどん気持ちよくなってる…」

メスガキ教官

「んちゅっ…右耳も、左耳もトロトロになって…ちゅむう…」

メスガキ教官

「もう、チンポのことしか、考えられなくなる…れろお…」

メスガキ教官

「んちゅっ、ちゅむちゅむ…れろれろれろお…  
んちゅむっ、ちゅるるう…」

メスガキ教官

「ちゅ、ちゅぶっ、ちゅるるうっ…ちゅ、ちゅちゅちゅっ、んちゅっ…」

メスガキ教官

「はちゅ、ちゅぶっ…れろれろっ…んちゅるるっ…はあ……」

メスガキ教官

「あ——▼ 勃起しちゃってる——▼」

メスガキ教官

「くふふふw やっぱ我慢できなかったんだー▼」

メスガキ教官

「ダッサw てかざっ！w ズいズい——w」

メスガキ教官

「はあー、ほんと哀れな負け犬ワンちゃん▼」

メスガキ教官 「くふふ、可愛そうだから、勃起チンポ外に出してあげるわね▼」

メスガキ教官 「うわあ……プロの種付けおじさんを目指すだけあって、中々のチンポをしてるわね」

メスガキ教官 「野生の種付けおじさんとは比べ物にならない……」

メスガキ教官 「ま、それでも、エリートメスガキのアタシの手にかかればイチコロなんだけど」

メスガキ教官 「ほら、こんなふうにつ……」

メスガキ教官 「しーこしーこ、しーこしーこシコシコシコッ」

メスガキ教官 「んっ……んっんんっ……どうっ？ いつでも射精してもいいのよっ」

メスガキ教官 「野生の種付けおじさんとかっ、  
2こすり半で射精しちゃうんだからっ」

メスガキ教官 「シコシコッ、しーこしーこッ、シコシコシコシコッ」

メスガキ教官 「チンポっ、情けなくビクビクさせちゃって……  
もっと無様にさせてやるわ▼」

メスガキ教官 「れろお……んじゆるっ、ちゅ、ちゆる……れろっ……ちゅちゅ……」

メスガキ教官 「んっ、んじゆるるうっ……ちゅっ、ちゅむちゆるう……  
れろれろれろお……」

メスガキ教官 「ちゅ、ちゅちゅちゅっ、ちゅむちゆる……  
んっ、んちゅ、ちゅっちゅうう………」

メスガキ教官 「耳舐めてから、さらにチンポ喜んでるわね」

メスガキ教官 「やっぱり好きなのね……小さい女の子にペロペロされるの……▼」

メスガキ教官 「この変態っ▼ぞいっ、ぞいぞいぞいっ▼」

メスガキ教官 「ちゆるじゆるるうっ……んっ、ほんとぞい」っ、ぞいぞいぞいっ▼

メスガキ教官 「ぎぎぎーこっ▼ ちゅっちゅむっ、ちゅるちゅちゅっ…」

メスガキ教官 「はむっ、んっ、んちゅるるっ、ちゅ、じゅるるっ、じゅる……」

メスガキ教官 「んじゅるっ、ちゅっ、ちゅまあ……んじゅるっ、れろれろろお……」

メスガキ教官 「んっ、んちゅ、ちゅぱっ……れろれろっ…  
じゅむむむっ……ちゅっ、ちゅっ……」

メスガキ教官 「ちゅむっ……金玉、ヒクヒクしてきてるし…  
もしかして、イキそうになってるの？」

メスガキ教官 「……くふふ、イキそうになってるんだあ▼」

メスガキ教官 「いくら見た目が立派でも、一皮むけば雑魚チンポってことね▼」

メスガキ教官 「んっ、んっ、んっ、シコシコシコシコっ▼」

メスガキ教官 「ちゅるるるむっ……んちゅっ、ちゅむっちゅっ、シコシコシコっ▼」

メスガキ教官 「ちゅっ、ちゅるるるっ、んちゅっ、んじゅるるるるっ……」

メスガキ教官 「んちゅ、ちゅまあ……んっ、ちゅちゅるっ……れろ、れろれろお……」

メスガキ教官 「ちゅ、ちゅ、ちゅちゅちゅっ…  
んっ、ちゅまっ、れろれろれろれえろお……」

メスガキ教官 「はあ……先走りもいっぱいあふれてるし……  
おもらししてるみたい▼」

メスガキ教官 「メスガキにイジメられて、感じまくってるの可愛い……▼」

メスガキ教官 「くふふふっ……なんか、アタシまで興奮してきちゃった▼」

メスガキ教官 「特別にアンタの乳首も舐めてあげるわ▼」

メスガキ教官 「ここまでしてあげるなんて特別なんだから、感謝しなさいよね▼」

メスガキ教官 「はむっ……んちゅるるうっ……ちゅっ、ちゅぱあ………」

メスガキ教官 「んちゅむ……これがアンタの乳首の味なのね…」

メスガキ教官 「くふふ、中々悪くないわよ…▼」

メスガキ教官 「ちゆるちゅちゅっ…んちゅ、ちゆるるむっ……れろれろろお」

メスガキ教官 「んちゅっ、ちゅ、ちゆるるうっ…じゅる、じゅぶ、じゅりゅう…」

メスガキ教官 「れろれろろお……乳首、ピンピンに勃起してる…▼」

メスガキ教官 「ちゅっ、ちゅむ…男なのに乳首で感じてっ…恥ずかしいの？」

メスガキ教官 「んちゅっ、ちゅ、ちゆるっ……」

このまま乳首で感じ続けたら…女の子になっちゃうわよ…▼」

メスガキ教官 「ちゅむっ…はあ……まあ、メスガキに負けてる時点で男失格よね▼」

メスガキ教官 「あむっ…ちゆるるっ、ちゅちゅちゅっ…ちゆるれろれろろお…」

メスガキ教官 「ちゅ、ちゅむるっ…んちゅれろお…はむっ、ちゅ、ちゆるるう…」

メスガキ教官 「はむはむはむっ…ちゅ、ちゆるるうっ…」

んっ、んちゅるっ…れろれろお…」

メスガキ教官 「ちゆるるっ…んちゅっ……ト口顔っ、気持ちよさそうっ…」

はむっ、ちゆる……気持ちいいんだあ…▼」

メスガキ教官 「んじゅるるう……雑魚だもんねっ…ちゅちゅむっ……」

気持ちいいのっ、我慢できない、わよね…▼」

メスガキ教官 「ちゅむっ……くふふ、チンポも真っ赤にっ、

膨らんでるし…ちゅ、ちゆる……」

メスガキ教官 「ちゅっ、ちゆるるっ、んちゅむっ、じゅむっ、じゅるるっ……」

メスガキ教官 「あむっ、んちゅむっ…ちゅ、ちゅっ……」

れろれろっ…んちゅっ…ちゆる…」

メスガキ教官 「んちゅっ、ちゆるるっ……気持ちいいのがっ…

金玉にいっぱい溜まってる……▼」

メスガキ教官 「んじゆるるうつ…ざ」精子がつ…どくどくーって作られてる…▼」

メスガキ教官 「ちゅっ、ちゅむむっ…びゅっびゅって、ざ」精子っ出したいわよねっ…▼」

メスガキ教官 「れろれろお…無様に射精してっ、ちゅむっ、気持ちよくなりたいわよねっ…▼」

メスガキ教官 「ちゅっ、ちゆるるうつ…じゆるっ…クソ雑魚精子っ、もう出しちやいなさいっ…れろれろお…」

メスガキ教官 「んちゅっ、ちゅっ…敗北射精っ、決めちやえっ…」

メスガキ教官 「ちゅっちゅるっ…ざ」ざ」ざ」ざ」ざ」ざ」っ▼」

メスガキ教官 「出せっ…出せっ出せ出せ出せっ、出しちやえっ…!」

／＼射精…19分36秒

メスガキ教官 「んんっ!? んんんんんうつ…!」

メスガキ教官 「……………」

メスガキ教官 「くふっ、くふふふふっ…………い——っばい射精しちゃったわね▼」

メスガキ教官 「あーあ、大人のくせにメスガキに負けちゃうなんて、恥ずかし〜▼」

メスガキ教官 「まっ、メスガキのエリートであるアタシが相手なんだから、仕方ないわよね」

メスガキ教官 「……でもまあ、アタシに射精させられて、勃起を維持できているのは褒めてあげるわ」

メスガキ教官 「だけど、これでアタシの实力は分かったでしょ?」

メスガキ教官 「アンタ」ときじゃ、エリートたるアタシには敵わないわ」

メスガキ教官 「さっさと土下座して負けを認めなさいっ」



メスガキ教官 「……ちっ、試験を諦めないなんて往生際が悪いわね」

メスガキ教官 「ふんっ、いいわ……次こそ、

完膚なきまでに叩き潰してやるんだからっ」

■③フェラーシックスサイン 今度こそ金玉を空っぽにしてやるわっ

メスガキ教官 「さて、次はどうやってイジメてやるうかしら……」

メスガキ教官 「……くふふっ、そうね……」ういっうのはどうかしらっ」

メスガキ教官 「くふふふ、アンタの顔をイスにしてやったわ▼」

メスガキ教官 「どう？ メスガキのイスになる気分は？」

メスガキ教官 「……ふふっ、嬉しくて鼻息でしか返事できないみたいね▼」

メスガキ教官 「はあー、メスガキパンツを必死に味わっちゃって、無様、無様▼」

メスガキ教官 「やっぱり、大人のオスをコケにしている瞬間が一番性を実感できるわね」

メスガキ教官 「……それじゃあそろそろ、本格的にイジメてあげるわ▼」

メスガキ教官 「うわっ、アンタのチンポ、精液でドロドロ……▼」

メスガキ教官 「くふっ、こんなの目の前にしたら、たまんないじゃない▼」

メスガキ教官 「あむっ……んちゅっ、れろお……はあ、まっず▼」

メスガキ教官 「アンタの精液、濃厚すぎっ▼」

メスガキ教官 「ちゅ、ちゅるっ……んっ、んちゅる……」

メスガキ教官 「トロトロでっ、喉にからみついてくるしっ……ほんと最悪▼」

メスガキ教官 「あむっ、んむっ……ちゅ、ちゅれろっ……はあむっ……れろれろお……」

メスガキ教官 「んくっ……うん、ようやくきれいになったわね……」

メスガキ教官 「くふふ、このままアンタのチンポをペロペロ吸い付くして、金玉が空っぽになるまで射精させてやるわ▼」

メスガキ教官 「れろっ……れろれろ……んちゅっ、ちゅちゅむっ……」

メスガキ教官

「ちゅっ、はぁ……男の人って、チンポの裏筋舐められるの好きわよね▼」

メスガキ教官

「んちゅっ、れろおー……金玉もヒクヒクして喜んでるわよ▼」

メスガキ教官

「はむっ、んちゅ、ちゆるっ……れろれろお……んむっ、ちゅ、ちゅま……」

メスガキ教官

「ん、んれろおー……ちゅっ、ちゅっちゅっちゅむっ……れろれろれろお……」

メスガキ教官

「ちゅまっ……もう我慢汁トロトロあふれてるし▼」

メスガキ教官

「くふっ……まあ、雑魚チンポだから仕方ないか……▼」

メスガキ教官

「ちゅっ、ちゅむれろっ……んちゅっ、ちゅむっ……れろれろれろ……」

メスガキ教官

「ちゅ、ちゆるるう……ちゅれろおー……れろれろれろれろ……」

メスガキ教官

「はぁ……なんかもう、イキそうになってんじやないのー▼ざっこ▼ざーこ▼」

メスガキ教官

「このまま雑魚チンポから、精液噴射しちゃえっ▼」

メスガキ教官

「んっ、あむっ……ちゅっ、じゆるっ……ちゅ、ちゆるる……れろっ、ちゅ……」

メスガキ教官

「ちゅむっ、ちゅ、ちゆるっ……ちゅ、ちゅまっ、ちゆるるるっ……」

メスガキ教官

「あむっ、あむあむっ……んじゆるっ……ちゅ、ちゆるるっ……」

メスガキ教官

「ちゅ、ちゆるるっ……れろっ……ちゅっ、じゆるるっ……ちゅばぁ……」

メスガキ教官

「じゆるるるうっ……ちゅ、ちゅまっ……んちゅ、ちゅちゆるっ……」

メスガキ教官

「んちゅっ……チンポっ、膨らんできてる……」

メスガキ教官

「ちゅ、ちゅまっ、精液っ、どくどく溜まってきてるんでしょっ……」

メスガキ教官

「んじゆるるるうっ……もう、出しちゃいなさいよっ……」

メスガキ教官 「んむっ、れろれろっ……じゆるっ、ちゅっ  
ちゅばあっ、ちゅちゅっ…」

メスガキ教官 「ちゅ、ちゅるるっ……んっ、れろれろっ……  
ちゅちゅちゅっ……んじゅるっ……」

メスガキ教官 「んちゅっ、ちゅっ、ちゅちゅちゅっ……  
じゅるむっ……じゅっぽじゅっぽじゅっぽ……」

メスガキ教官 「ちゅっ、ちゅるっ……れろっ、んれろっ……じゅるるるっ……んちゅむっ……」

メスガキ教官 「んくつ、はあむつ……ちゆ、れろれろ……じゆつ、ちゆ、ちゆうつ……」

メスガキ教官 「んじゆるるるっ…チンポっ、ビクビクさせてっ……  
ちゅ、ちゅるるっ…」

メスガキ教官 「ちゅっ、ちゅるるっ……出すのねっ……  
精液っ、びゅっびゅっって、出すのねっ……」

「ちゅるるむっ、れろれろっ……んじゅるるうっ……」

メスガキ教官 「んじゅるるうっ……くっさい精液、飲ませなさいっ……」

「れろっ、じゆるっ、じゆるるるるっ……ちゅばっ、ちゆるるっ……」

メスガキ教官 「じゅるるっ…れろっ、んっ…ちゅっ、うっ  
ちゅちゅっ…ちゅるるう…」

「はあむっ、んっ、ちゅっ……ちゅちゅっ……ちゅばちゅむっ……」

メスガキ教官 「ちゅくっ……ちゅるるるうっ……じゅるるるうっ……  
んじゅるるるうっ……」

射精.. 9分16秒

メスガキ教官 「んっ……んんんんうっ！ んうううううううぐううっ……！」

メスガキ教官 「……んっ、んくっ……ちゅっ、んちゅうっ……」

「はあくっ……ん、んくっ……はあっ……あ……」くっ……」

メスガキ教官 「ぶはあっ……ああ、マズかった…▼」

メスガキ教官 「でも、今度こそアンタの落第は決定ねっ」

メスガキ教官 「もう種付けおじさんなんて、くだらない仕事は諦めて、  
真っ当に働きな——」

メスガキ教官 「……って、え？ えっ？ 嘘でしょ？

どうして、また勃起してるの!？」

メスガキ教官 「このアタシが2回も射精させたのよ!？  
それなのにどうして?……!」

メスガキ教官 「……ふ、ふんっ、どうやらアンタの種付け力は、  
並大抵のものではないみたいね」

メスガキ教官 「いいわっ、だったらもう一回フェラで搾り取るまでよっ」

メスガキ教官 「んじゅるるるうっ……ちゅ、ちゅるるっ、んちゅっ、ちゅむむっ……」

メスガキ教官 「んちゅっ、ちゅむむっ、ちゅっ、ちゅるるるっ…  
んちゅっ、ちゅちゅっ…」

メスガキ教官 「あむっ、ちゅれろおっ……どっつ、  
イッたばかりでフェラされるのはっ、辛いでしょ…っ」

メスガキ教官 「ちゅむっ……降参したくなったら、いつでも  
——って、うにゃあああああああああっ!」

メスガキ教官 「あ、アンタっ、勝手にパンツを脱がして……!」

メスガキ教官 「んんっ!？ あ、ああっ、あ、あ、あんっ……!」

メスガキ教官 「んあっ……! あ、い、いいわっ……このままどっちが先に  
イカせるか勝負よっ……!」

メスガキ教官 「ちゅっ、ちゅるるっ……んっ、ちゅむっ……れろ……じゅるるるっ……」

メスガキ教官 「んちゅむっ……あ、ちゅちゅっ……ちゅばあっ……あっ、ちゅちゅむっ……」

メスガキ教官 「あっ……んっちゅっ……じゅるっ……れろれろおっ……ちゅ、ちゅぶっ……」

メスガキ教官 「ちゅむっ、ちゅるっ……んくっ……ちゅ、ちゅるるるっ……んんっ……」

メスガキ教官 「ふあっ……ちゅるっ……やばっ、コイツ、そこそこ上手いじゃないっ……」

メスガキ教官 「んちゅむっ……って、なに關心してるのよっ……」

メスガキ教官 「アタシはっ……ちゅむっ……メスガキのエリートなのよっ……  
大人のオスなんかにつ、負けたりしないっ……!」

メスガキ教官 「ちゅっ、ちゅるるるっ……んんっ……んあっ、あっ、  
ああっ……じゅるる……」

メスガキ教官 「んちゅっ、ちゅっ、ちゅちゅちゅっ……れろれろれろっ……」

メスガキ教官 「あっ、あっ、んぐっ……んくっ……ちゅっ、ちゅるっ……うっ……れろ……」

メスガキ教官 「んっ……やばっ、あ、ああっ……これっ、イカされるっ……」

メスガキ教官 「ちゅ、ちゅむっ……アタシがっ、こんなっ、簡単につ……!」

メスガキ教官 「ちゅっ、ちゅるるうっ……れろれろっ……  
んあっ、ああっ……じゅるるっ……」

メスガキ教官 「あ、ああうっ……んんっ、じゅるるるう……ちゅ、ちゅるむっ……」

メスガキ教官 「んちゅむっ、んんっ……ちゅ、ちゅるるっ……あっ、ああっ……」

メスガキ教官 「あ、んあああああっ!?! く、クリトリスはだめえええっ!……!」

メスガキ教官 「く、クリはダメなのおっ! んあああっ、  
そこはメスの弱点なのおっ!」

メスガキ教官 「んなあああっ! ああああっ! あっ、ああっ! あああああっ!」

メスガキ教官 「んんひいっ! く、クリトリスを狙うなんてっ、ひ、卑怯者っ……!」

メスガキ教官 「ああっ、んあああっ、ああうっ、んんんうっ!  
あ、アタシだって……!」

メスガキ教官 「んじゆるっ、んんっ、あ、ああっ……ちゅ、ちゆるるっ……」

メスガキ教官 「ちゅ、ちゆるるっ……んあっ、ああんっ……ちゆるるっ、じゆるるるうっ……」

メスガキ教官 「んっ、じゆるるうっ……あ、ああんっ……れろれろっ……んっ……」

メスガキ教官 「んじゆるるるるっ……ちゅっ、んああっ、ああっ……  
んっ、ちゆるれろっ……」

メスガキ教官 「ちゅむっ、ちゆるるうっ……あ、ああっ……ちゅむちゅっ……」

メスガキ教官 「あ、あうっ……やあっ……あ……激しっ……んんっ……ちゆるるっ……」

メスガキ教官 「んじゆるるるっ……これっ、イカされちゃっ……  
んんんっ……あっ、ちゅむっ……」

メスガキ教官 「ちゅ、ちゆるるっ……い、イキたくないっ……あっ、はうっ……」

メスガキ教官 「はやくっ……じゆるるっ……イッてよっ、イキなさいよっ……」

メスガキ教官 「ちゅ、ちゆるるるっ……イケっ、イッて……んんっ、ああっ……」

メスガキ教官 「じゆるるうっ、ちゅっ、あ、ああっ、んああっ……ちゅちゅっ……」

メスガキ教官 「ちゆるるるっ……イクっ、イクイクっ、イッちやうっ……」

メスガキ教官 「んじゆるるるっ……んっ、んくっ、ちゅまっ、ちゆるるるるっ……」

メスガキ教官 「んんんっ！？ んんっ、ああっ、じゆるるるっ、あ、  
はむっ、ちゅううっ、うう……」

／＼ 射精…16分51秒

メスガキ教官 「んんんんっ！？

うううううううううううううううう……」

メスガキ教官 「んぐっ！？ ぐうっ、んんっ……んぐっ……ぐっ、んんっ▼

メスガキ教官 「ん、んあっ、んくっ……んくっ、あ……うくっ……くっ……んんっ

メスガキ教官

「んあっ…はあっ…はあはあ…ま、まさか、このアタシがイカされるだなんて…」

メスガキ教官

「……くっ、勘違いしないでよね！今日はたまたま調子が悪かっただけなんだからっ」

メスガキ教官

「いつもの調子だったら、アタシの圧勝だったんだからねっ」

メスガキ教官

「…調子に乗るんじゃないわよっ！」



■④メスガキわからセックス んおおっ！？ ち、チンポなんかにつ、  
んひいいいっ！？

メスガキ教官 「さあ、次はセックスで勝負よっ！」

メスガキ教官 「さっきは油断しちゃったけど、今回はそうはいかないわよ」

メスガキ教官 「アタシは生まれてこのかた、

セックスバトルで負けたことがないんだからねっ」

メスガキ教官

「アンタなんか、アタシのおまんこ攻撃で

ボコボコのけちよんけちよんにしてやるんだからっ！」

メスガキ教官

「んしょっ…んっ……このまま騎乗位で、しばらくってあげるわっ」

メスガキ教官

「ん、んんっ……あっ、んっ、んんう……▼」

メスガキ教官

「はあっ、はあ……ど、どうよ、アタシのエリートまんこはっ」

メスガキ教官

「そんじゃそこのメスとは、段違いの気持ちよさでしょ？」

メスガキ教官

「ほらっ、ほらほらっ……なんとか言ってみなさいよっ……▼」

メスガキ教官

「んっ、あ、ああっ、んあっ……あうっ……あああっ……▼」

メスガキ教官

「あうっ……んんっ、んっ、あんっ……ふあっ、あ、ああんっ……んっ▼」

メスガキ教官

「ふふっ…気持ちよさそうな顔しちゃってる…」

メスガキ教官

「メスガキまんこでっ、ぬぼぬぼシゴかれてっ、  
変な声まで出しちゃてっ……▼」

メスガキ教官

「くふふっ…本当に無様なワンちゃんねっ……▼」

メスガキ教官

「あ、ああんっ……んんんうっ、ん、んんっ、  
んあっ、あっ、あうっ……▼」

メスガキ教官

「ん、んああっ…はあっ、ん、んく…ん、あ、ああっ……ああんっ……▼」

メスガキ教官 「あ、んんっ……結局、大人のオスは、メスガキに勝てやしないのよっ▼」

メスガキ教官 「どいつもこいつもっ、最終的には、へこへこ腰を振って…ほんと笑えるわっ」

メスガキ教官 「あ、ああんっ、んあっ、ああっ……ん、んんんっ…ふあっ、ああんっ…▼」

メスガキ教官 「アンタもっ、強がつてはいるけどっ、すぐに泣いてわびるようになるわっ…」

メスガキ教官 「あ、んんっ…今からっ、謝罪の言葉を考えておきなさいっ…▼」

メスガキ教官 「あっ、はあっ、あっ…んっ、うっ、んんっ…あ、ああ、あ、あう…▼」

メスガキ教官 「んんっ、んあっ、あ、ふあっ…ん、ん…あっ、あっ…あうっ…▼」

メスガキ教官 「あっ、はあっ、んっ…んんっ…うっ、あ、ああっ、んう、んんっ…▼」

メスガキ教官 「あ、ああんっ、んんっ、んくっ……チンポっ、膨らんできてっ…んんっ…▼」

メスガキ教官 「あ、ああっ…そろそろっ、出そうなのねっ…あ、ああうっ…▼」

メスガキ教官 「ああっ…んっ、んんっ、いいわよっ…無様につ、雑魚射精っ決めちゃいなさいっ▼」

メスガキ教官 「ふあっ、あっ…んんっ…出せっ、精子出せっ…んくっ、出しちゃいなさいっ▼」

メスガキ教官 「ああんっ、んんっ、んくっ…んっ、んんっ、ああっ…ああうっ▼」

／＼射精…4分59秒

メスガキ教官 「んああっ!? ああうっ…んんんんう~~~~~▼」

メスガキ教官 「はあ……はあっ…あ…んっ、はあ……はあ……▼」

メスガキ教官 「精液、たくさん出したわね……今度こそ、アンタも終わりね……」

メスガキ教官 「……って、嘘っ！？　なんでまだ勃起できるのよっ！」

メスガキ教官 「なんなのよアンタっ！　これだけ射精したのにっ、  
アタシのおまんこでしぼり取ってやったのにっ」

メスガキ教官 「許せないわっ、このアタシにここまで恥をかかせるなん  
——あひいっ…？」

メスガキ教官 「おっ、おっ、おっ…んおおおおおっ！…っ？」

メスガキ教官 「はっ、激しっ、あぁっ、あああああっ、あああああんっ！」

メスガキ教官 「や、やめなさっ、んひいっ！　あ、あああんっ、  
んんんんんうううっ！」

メスガキ教官 「お、おまんこっ、壊れりゅっ、これっ、やばっ…  
あぁあっあああんっ！」

メスガキ教官 「あぁっ、んなあああっあああんっ…  
んんんいいいいいいいっ！」

メスガキ教官 「おっ、おっ、おっ、おっ…　おおおっ？　んおおおおおっ！」

メスガキ教官 「あ、ありえないいっ…　あ、アタシはっ、  
メスガキのエリートなのよっ！」

メスガキ教官 「え、エリートのアタシがっ…んほおおっ！？  
種付けおじさんなんてっ、下等な存在にいいいっ！」

メスガキ教官 「あ、ああっ、んなあっああああんっ！　イグうっ！  
これっ、イガされりゅっ！」

メスガキ教官 「あああああっイグっ、イッじやうっ、  
イックううううううううううううっ！」

メスガキ教官 「あっ、あっああっ…　あっ…　ああ…あうっ…　うっ…」

メスガキ教官 「こ、こんなのっ、知らない…　アタシがっ、  
こんな犯されかたするなんてっ…　ありえないっ…」

メスガキ教官 「絶対につ、許さないからっ…絶対に、やられた分だけ、  
アンタにつ——」

メスガキ教官 「んぶお おお おお おお おお おお おお っ！……！」

メスガキ教官 「んぶっ！？ おぶっ おぶんっ！ んなああああああっ！」

メスガキ教官 「ま、まだパンパンしちゃっ、らめえええっ！」

メスガキ教官 「おまんこっ、壊されちゃうっ…！ だめっ、らめなのおっ…！」

メスガキ教官 「んおおおっ！ んおおおおおおおっ……  
あああああああああっ！」

メスガキ教官 「あああっ、あああああああっ！ ああうっ、  
んなあああああっ！」

メスガキ教官 「んああっ！ ああんっ！  
ああ、あ、あ、あ、あ、ああああああっ！」

メスガキ教官 「頭っ、おかじくなりゅっ！ おかじくなりゅのおおおっ！」

メスガキ教官 「目がっ、目がっパチパチすりゅっ！ んんんおおおっ！」

メスガキ教官 「ああああっ、んんあっああああっ、ああああああああああっ！」

メスガキ教官 「んひいひいっ！？ おおおっ、んおおおおおおおっ！？」

メスガキ教官 「い、いいいいぐうっ！ またイカされりゅっ！」

メスガキ教官 「い、イクのやだっ！ い、いいきたくないっ……！」

メスガキ教官 「絶対につ、イツてたまるううっ……  
イックうううううううううううううう……！」

メスガキ教官 「はあっ…あっ、ああっ…ああうっ…うっ、うあっ…」

メスガキ教官 「いっ…イカされたっ…ま、またっ、簡単につ…いっ…うあっ…」

メスガキ教官 「あ、アタシはっ、エリートっ…メスガキなのよっ………」





■⑤お仕置きアナルセックス お、お尻っ！ お尻はらめええっ！

メスガキ教官 「はあっ……はあ、はあっ……あうっ……あ、はあ……」

メスガキ教官 「い、いやあ……ま、まだ、続けるって言うの……っ」

メスガキ教官 「や、やめておきなさいっ……」

アンタもこれ以上射精するのっ、辛いでしょ？」

メスガキ教官 「大人しくギブアップしてっ——」

メスガキ教官 「んきゃっ」

メスガキ教官 「……んんっ！？ あ、アンタ、なにお尻に入れようとしてるのっ！」

メスガキ教官 「ダメよっ、お尻は絶対にダメなんだからっ……！」

メスガキ教官 「お尻に入れたりしたらっ」

メスガキ教官 「うぐっ！？ お、お尻に入って……んぐうっ！？」

メスガキ教官 「んぐっ……んぐぐぐぐっ……んんうっ、んっ……」

メスガキ教官 「んあっ、あっ、ああっ……はあっ、あうっ……んっ……んあっ、あっ……」

メスガキ教官 「あっ、んんっ、お、お尻っ……犯されてるっ……」

んっ、ああ、あうっ……」

メスガキ教官 「あ、あああ、ああんっ、あんっ……んはっ、はうっ……ん、んくっ……」

メスガキ教官 「ひあっ、あっ、ああんっ……んなっ、あ、ああんっ……ふっ……んっ……」

メスガキ教官 「あ、アタシはっ……お尻をっ、犯されててもっ……」

感じたり、しないんだからっ……」

メスガキ教官 「あ、ああんっ、んんっ、ん、あ、あああっ……あ、んっ、んんっ……」

メスガキ教官 「こんなのっ、んんっ……全然っ、気持ちよく、ないし……」

ふあっ、あっ……」

メスガキ教官

「あ、ああんっ……というかつ、アンタのセックス……  
下手くそっ、なのよ……」

メスガキ教官

「あ、ああうっ……んんあっ……ひうっ……あ、ああんっ……  
んあっ、あ、ああっ……」

メスガキ教官

「んっ……んくっ……あ、ああっ……  
あ、あ、あ、ああ、あっ……ああんっ……」

メスガキ教官

「あ、ああんっ……ほんとっ、カスみたいなっ、腰フリねっ……」

メスガキ教官

「へこっへこって……マヌケなっ、ワンちゃんみたい、だわっ……」

メスガキ教官

「あっ、あっ、ひうっ……んんっ、んくっ……あ、ああんっ……んあっ……」

メスガキ教官

「はあっ……はっ……んっ……んあっ、あ、ああんっ……んなっ、あうっ……」

メスガキ教官

「あ、ああんっ……はっ、お、お尻がっ、熱いっ……んっ、あ、あっ……」

メスガキ教官

「こ、これはっ、感じてるんじゃっ、ないんだからねっ……」

メスガキ教官

「エリートのっ、アタシが……お尻で感じるわけっ……  
あっ、ああっ……あんっ……」

メスガキ教官

「んっ、んあっ、ああうっ……んっ、ああっ、あああっ、  
んあああああっ……」

メスガキ教官

「あ、あああんっ……んっ、んんっ……あ、ああ、あっ……ふああっ、あんっ……」

メスガキ教官

「あ、アタシはっ……感じてっ、ないっ……  
感じてなんかあ、あああああっ……」

メスガキ教官

「んああっ、あああうっ、んなああああっ……  
ああうううっ……あああっ……」

メスガキ教官

「あ、ああっ……うああああっ……ひうっ……あ、あああっ……あ、ああん……」

メスガキ教官

「んおっ、あ、ああんっ……んくっ、お、お尻っ、お尻っ熱いっ……」

メスガキ教官

「あ、あああっ、あああんっ……あ、あああっ、あああっ……」





メスガキ教官 「ああ、あ、あ、あ、あああつ！ お、お尻っ、焼けりゆううつ▼」

メスガキ教官 「んひいひいっ!? んおっ! おんっ、おおっ▼」

メスガキ教官 「あ、あ、あ、あ、あ、あああつ、んあああああああつ▼」

メスガキ教官 「お、おちりっ、おちりがああっ…… あ、ああああああっ！」

メスガキ教官 「んんんうっ、んぐっ、んごっ…おごっ、おごうっ▼」

メスガキ教官　「おっ、おっ、おっ、おっ、おんっ！ ああ、ああ、ああ、ああ、うっ……！」

「んひつ、んぐつ……んんうつ、んなああつ、ああああつ▼」

メスガキ教官 「あつ…ああんっ!？ イクつ、またイガされちやううつ▼」

メスガキ教官 「おちりっ、イギだぐないっ……！ 絶対っ、イギだぐっ……ん？ お！ お！？」

「おおんっ！ イグっ！ イツじゃうからっ▼」

メスガキ教官 「んがお おおおおおおおお」

「おつ、おお……イツじやった……おつ、おちりで……おちり……」

メスガキ教官 「んっ、んあっ……ああう……もっ、もうっ、もうやだあ……」

メスガキ教官 「もうっ、やなのっ……お尻っ、イキたくないのっ……」

「ゆ、許してっ、もう許してください……  
これ以上っ、お尻で気持ちよくなったら……終わっちゃうのお」

メスガキ教官　「おおおおおつ、お<sup>お</sup>お<sup>お</sup>おおおおおつ……！」

メスガキ教官 「おおっ、おおっ、おおっ、終わりゅっ、おちりっ、終わりゅうううっ▼」

メスガキ教官 「んああつ、ああああつ！  
ああ あああああああああつ▼」

メスガキ教官 「んおおっ▼ おおんっ▼ お<sup>お</sup>お<sup>お</sup>おんっ▼」

メスガキ教官 「ゆっ、許してって、いったのにiiiiiiiiっ▼」

メスガキ教官 「んおおおおおっ！」「ころしゅっ！ 殺してやりゅっ！」

メスガキ教官 「アンタだけはっ…許さないiiiiiiiiっ……！」

メスガキ教官 「おちりいいっ！？ おおおちりいいっ……！」

メスガキ教官 「んぎゃああっ！？」

メスガキ教官 「あひいっ……？」

メスガキ教官 「んひいいっ！？」

メスガキ教官 「ビグうっ……！」

メスガキ教官 「あぎゃああああああっ……っ？」

メスガキ教官 「あっ……ああっ……あう……あ……あっ」「

メスガキ教官 「ら、らめえ……おちり……おちりペンペン、らめえ……」

メスガキ教官 「」「ごめんなさい……生意気いってごめんなさい……」

「ごめんなさいだから……」

メスガキ教官 「んおおおおおとおおおっ……！」

メスガキ教官 「やだあああっ！ やらあああああああゝゝゝ！」

メスガキ教官 「もうっやああああっ、やなのおおおおおっ！」

メスガキ教官 「んあああっ……？」

メスガキ教官 「あひいっ……？」

メスガキ教官 「んほおおおっ……？」

メスガキ教官 「おちりペンペンっ、感じりゅのおっ▼ 気持ちいいのおっ▼」

メスガキ教官 「あひいっ…?」

メスガキ教官 「もっ、もっ、これイグっ、イッじゃうっ▼」

メスガキ教官 「んおおっ、おおおおっ、おおおおおおんっ▼」

メスガキ教官 「イグっ、イグイグイグっ▼ イッじゃってりゅっ▼」

メスガキ教官 「あひっ、んなあああっ▼ あああああああっ▼」

メスガキ教官 「もっ、イグの止まらにやいいいっ▼」

メスガキ教官 「おちりもっ、全部壊れちゃったああああっ▼」

メスガキ教官 「あ ああああああ▼ イグイグイグううううううう▼」

／＼射精…10分8秒

メスガキ教官 「んほおおおおおおおおおおおるるるるる▼」

メスガキ教官 「お……おっ、お おおっ……ん お、お、お……」

メスガキ教官 「おっ……おお……おっ……」

メスガキ教官 「んおっ……おっ、おっ……精液っ、漏れてりゅ……」

メスガキ教官 「んおっ……お……おおっ……お……」

メスガキ教官 「おおっ……お、おうっ……んおっ……お……」

■⑥メスガキ教官の敗北宣言セックス 卒業つ、おめでとぅ「じゃいましゅっ♡

メスガキ教官 「はあっ……はっ、はあ……はあ、あう……あ……はう……」

メスガキ教官 「も、もう無理でしゅっ……これ以上っ、セックスできません……」

メスガキ教官 「身体がつ、もたないんです……許してください……」

「ごめんなさい……なんでもしますから……」

メスガキ教官 「ひいうっ!？ や、やだっ……やだやだっ! もうやめてっ」

メスガキ教官 「んきやあああっ!？」

メスガキ教官 「いやっ、許してっ、お願いしますっ、

「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい」

メスガキ教官 「んおおおおおおおおおおおっ▼」

メスガキ教官 「おおおおっ、んおおおおおおおっ▼

おまんこ「らめええええっ▼」

メスガキ教官 「あ、あああああっ、ああああんっ!？

あゝあああああああっ!」

メスガキ教官 「ああっ、ああんっ、んんんうっ……ひいあああああっ▼」

メスガキ教官 「殺されりゅっ……! またチンポに殺されりゅっううううううっ▼」

メスガキ教官 「んおおっ、おおおんっ、んおおおおおおおっ▼」

メスガキ教官 「「りゅ」りゅっ、子宮っ、潰されてっ、イグっ▼ イガされりゅっ▼」

メスガキ教官 「んあああああああっ、イグっ、イグイグっ▼

即イキすりゅううううっ▼」

メスガキ教官 「ひやあああああああああああああああああああっ▼」

メスガキ教官 「あああああああっ、イッてりゅううううううっ▼

イッてりゅからあああああああ▼」

メスガキ教官 「んおおっ、 おおおおおおおおおおおおおお」▼

メスガキ教官 「イキながらパンパンされりゅのっ、 気持ちよすぎりゅううううう」▼

メスガキ教官 「あああああつ、 あああんっ▼ 頭バ力になっちゃううううう」▼

メスガキ教官 「ひいあああうっ、 んんっ、 んあつ、 あああつ、  
あああ、 あああああっ▼」

メスガキ教官 「あ、 ああんっ▼ んおっ▼ おおおうっ▼ んおおおお」▼

メスガキ教官 「あああああイクっ、 連続でイカされちゃうううううううう」▼

メスガキ教官 「あゝ ああああああああああああああああ  
あああああああああ▼」

メスガキ教官 「イツダあああああ▼

またイガされたあああああああああ▼」

メスガキ教官 「おゝおっ▼ おほおおおおおおおおおおおおお」▼

メスガキ教官 「イキながらイツでりゅううううううううう」▼

メスガキ教官 「あゝ ああああああああああああああ▼」

メスガキ教官 「じぬううううううううう▼  
イギながらじんじやうううううううう」▼

メスガキ教官 「んゝおゝ おおおおおおおおおおお」▼

メスガキ教官 「おおっ、 んあああああつ、 あああつ、  
んんんんんううううう」▼

メスガキ教官 「ああっ、 ああああああつ、 あああつ、 あああああああああ▼」

メスガキ教官 「じにゅうううううううううううううう」▼

メスガキ教官 「んゝおゝ おおおお▼ イグっ▼ イグイグうううううう」▼

メスガキ教官 「イグううううううううううううううううう」▼

メスガキ教官 「ん」っ、おっ……お」っ……お、おおっ……んおっ……」

メスガキ教官 「おっ……おおっ……んっ……た、たしゆけてっ……」

メスガキ教官 「しにゆっ……死んじゃう、から……死んじやいましゆ……」

メスガキ教官 「んあっ……死にたくないっ……せつくしゆで、死にたくない……」

メスガキ教官 「……………あ、あ、あっ、あっ、あっ……  
あああああああああああっ▼」

メスガキ教官 「ゆっくりいっ！ ゆっくりパンパンだめなのおっ！」

メスガキ教官 「あああああああああああっ……  
重いのがきちやうううううううっ……！」

メスガキ教官 「あっ、んななあっ、ああああああっ、  
ああああああああああんっ！」

メスガキ教官 「子宮がっ、苦しいのっ……！ これっ、ダメなやつなのおっ！」

メスガキ教官 「あ、あっ、ああっ、ああああああああああっ！  
重いのがたまってきたるっ！」

メスガキ教官 「怖いっ！ イキたくないっ！ 今イッたら怖いのおっ！」

メスガキ教官 「ふわあああああああああっ▼  
せめて子宮。パンパンやめてっ！ 子宮はやめてくださいっ！」

メスガキ教官 「ああああああああっ！ もうダメっ！ もう怖いのきちやうっ！」

メスガキ教官 「いやっ！ イキたくない！ イキたくないのっ！  
ああああああっイクっ！ イキますっ！」

メスガキ教官 「イッツツツツツツ……  
~~~~~」

メスガキ教官 「……………はっ、はあっ……！ はっ、はっ、はっ、はっはっはっ……！」

メスガキ教官

「はっ、はっ、はうっ…は、はっ…はっ……  
あ、ああああっ、ああああああっ……！」

メスガキ教官

「お、ああああああああああああああああああっ▼」

メスガキ教官

「んなああああああっ、あああああああうっ、  
やあああああああああ▼」

メスガキ教官

「あ、あああっあんっ、んんiiiiiiiiiiiiいっ▼」

メスガキ教官

「…も、もう負けましたっ！ アタシの負けでしゅっ▼」

メスガキ教官

「んおっ、おおっ▼ 雑魚まんこがっ、  
調子に乗ってすみましえんでしたっ▼」

メスガキ教官

「おっ、おっ、おおっおおううううっ▼」

メスガキ教官

「も、もうっ、アナタ様の勝ちでしゅからっ、  
せつくしゅ、やめてくだしやいっ▼」

メスガキ教官

「雑魚まんこっ、これ以上イッたらっ、終わっちゃうんでしゅっ▼」

メスガキ教官

「終わっちゃいましゅからっ…なああああイクっ▼  
イクイクううううううう▼」

メスガキ教官

「…んお、おおおおおおっ▼ また負けましたあっ▼」

メスガキ教官

「メスガキはっ、大人に勝てないんでしゅっ▼  
メスガキは雑魚なんでしゅっ▼」

メスガキ教官

「ああっ、ああんっ、んなああっ、あ、ああっ、あああああっ▼」

メスガキ教官

「ああああっ、ああああああっ、んあああああああううう▼」

メスガキ教官

「んおおおおおっ、チンポ気持ちいいのおお~~~~▼  
もうチンポのことしか考えられなにやいいい~~~~▼」

メスガキ教官

「ああああううっ▼ おほおおおおおおおおおっ▼」

メスガキ教官

「またイッちゃうのおおおおおおお▼」





メスガキ教官

「大人のチンポっ、しゅ」すぎるのっ……  
こんにゃのっ、絶対に勝てにゃい……▼」

メスガキ教官

「んっ、んあ……生意気なっ、メスガキを、  
教育してくだしゃり……ありがとっ」じやいましたあ……▼」

メスガキ教官

「これからのはっ、大人に逆らわない、  
肉便器として、生きていきましゅ……▼」

メスガキ教官

「んぶっ……▼　そ、卒業試験は……合格でしゅっ……▼」

メスガキ教官

「あ、あなたのはもう、立派な種付けおじさんでしゅっ……▼」

メスガキ教官

「これからっ、世の中のために、種付けをっ、  
頑張ってください……▼」

メスガキ教官

「」卒業っ、おめでとっ、」ぞっましゅっ……▼」

／了